

ボーイング (BA)

【セクター】 民間航空機製造販売

信買

【市場】 NYSE

信売

【企業概要】

米航空機メーカー。民間航空機と軍用機・武器を製造し、航空会社にアフターマーケットサービスを提供する世界大手です。民間航空機分野では長年にわたって世界をリードしてきました。主な機種は、ボーイング737/787/777/767/747型機とボーイング・ビジネスジェットです。民間航空機に加え、軍用機・武器を製造する防衛・宇宙・セキュリティ、航空会社にアフターマーケットサービスを提供するグローバル・サービス、キャピタル・コーポレーションの4つの部門で事業を展開しています。

【業績】 (単位：売上高、純利益は百万ドル、EPS、1株配当、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%、純利益、EPSは調整後ベース)

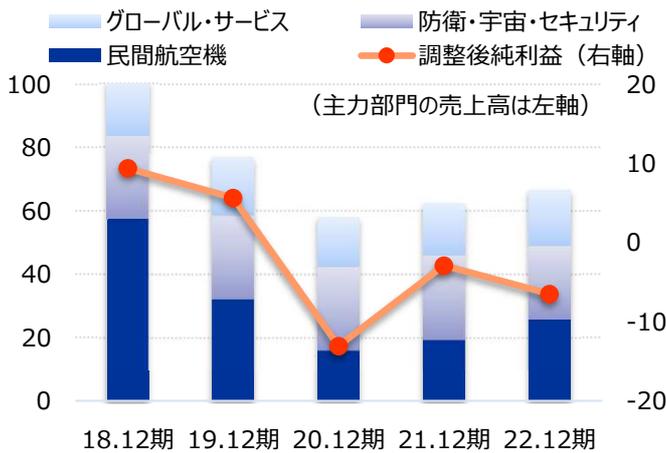
決算期	売上高	純利益	EPS	1株配当	BPS	ROE	自己資本比率
22.12期	66,608	-6,496	-10.92	0.00	-26.6	-	-11.6
23.12期	77,794	-3,485	-5.75	0.00	-28.3	-	-12.6
24.12期 (予)	90,027	2,322	3.40	0.37	-23.5	-	-

※EPS：1株当たり利益、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率

(出所) BloombergのデータよりSBI証券作成

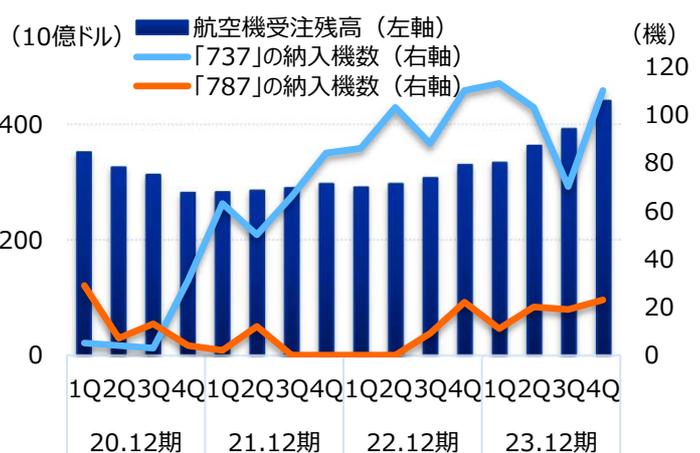
【主要指標】

主力部門の売上高と調整後純利益 (10億ドル、通期ベース)



(出所) BloombergデータよりSBI証券作成

航空機受注残高と主力機の納入機数 (四半期ベース)



(出所) BloombergデータよりSBI証券作成

【会社の見方】

民間航空機と防衛・宇宙・セキュリティが2大主力部門です。民間航空機ではエアバスと並んで世界2強を成し、軍事産業では最大手のロッキード・マーティンに次ぐ2位です。民間航空機部門は19.12期以降、主力機の「737MAX」の墜落事故や「787」の品質問題による納入遅れの影響、パンデミックも追い打ちとなり、低迷が続きました。その後、「737MAX」の運航再開により「737」の納入が回復し、「787」も22.12期3Qに納入を再開しました。「737MAX」と「787」による2大危機から脱却しつつある中、22.12期は主力機の納入拡大でフリーキャッシュフローが18.12期以来初めてプラスに転じました。しかし、2024年1月に「737MAX」改良型で機体の一部が吹き飛ばされるという事故を起こしました。今回の事故について、経営陣は「問題は当社が原因」と認めました。度重なる品質問題を考慮すると、信認回復には時間がかかりそうです。

【見通し・注目点】

4Q業績は市場予想を上回りましたが、2024年1月の「737MAX」改良型の事故で、再び品質問題が浮上しました。経営陣は「問題は当社が原因」だとし、品質問題に取り組むと表明。事故の影響で、通期ガイダンスの公表を見送りました。需要は変わらず、受注残は堅調だと表明しましたが、回復軌道における事故だったため、当面、ネガティブな影響は続きそうです。

本レポートに関するご注意事項

- ・本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。
- ・本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。本資料の内容は作成時点のものであり、信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したのですが、正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載の情報、意見等は予告なく変更される可能性があります。

手数料及びリスク情報等

- ・SBI証券で取り扱っている商品等へのご投資には、各商品毎に所定の手数料や必要経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等は価格の変動等により損失が生じるおそれがあります(信用取引、先物・オプション取引、商品先物取引、外国為替保証金取引、取引所CFD(くりっく株365)では差し入れた保証金・証拠金(元本)を上回る損失が生じるおそれがあります)。各商品等への投資に際してご負担いただく手数料等及びリスクは商品毎に異なりますので、詳細につきましては、SBI証券WEBサイトの当該商品等のページ、金融商品取引法等に係る表示又は契約締結前交付書面等をご確認ください。